

取扱説明書



ガレージジャッキ 低床 エアー式

注文コード：(2t)62277898/(3t)62277907

このたびは、ガレージジャッキ 低床 エアー式をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に本書を必ずお読みのうえ、正しく安全にご使用ください。また、いつでも取り出せる場所に必ず保管してください。

1 安全にお使いいただくために

ここに書かれた注意事項は、人体への危害や財産への損害を未然に防止するための内容です。いずれも安全にお使いいただくためには重要ですので、必ずお守りください。



危険

この表示内容が無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が切迫して想定される内容をしめています。



警告

この表示内容が無視して誤った使い方をした場合は、死亡や重傷などの重大な傷害に結びつく可能性があります。



注意

この表示内容が無視して誤った使い方をした場合は人的傷害や製品の破損、その他の物的損害へつながる可能性があります。

ご使用上の注意

【はじめに】 誤った使用方法により人的傷害や製品の破損、その他の物的損害が生じた場合、一切の補償、責任を負いません。
また、本製品の分解や改造、修理は、絶対に行わないでください。



危険

- 本製品は自動車のタイヤ交換や整備のためのものです。本来の用途以外で使用しないでください。
- 自動車をジャッキアップ・ジャッキダウンさせる際は、車体の下や周りに人がいないこと、他の車両や工具、部品がないことを確認してから作業を行ってください。
また、ジャッキアップ中に車両の下へ手、足、身体を入れないでください。
- ジャッキを設置する際は使用中に絶対にジャッキが外れない部分に設置してください。ジャッキアップしている対象物を破損させたり、対象物が落下するなどの危険性があります。
- 本製品はジャッキアップするためにご使用いただくものです。ジャッキアップ状態を保持するためのものではありません。ジャッキアップした状態で保持させる際は、必ず別売のジャッキスタンドを2個ご使用ください。
- ジャッキを使用する前に負荷のない状態でジャッキアップテストを行ってください。
- 最大荷重を超える負荷で使用しないでください。

注文コード	62277898	62277907
最大荷重	2,000kg	3,000kg

- 安全バルブは適正な荷重になるように出荷時に調整されているため、絶対にさわらないでください。
- ジャッキアップした状態で車両から離れないでください。
- 安全のため、別売りのジャッキスタンドで支えながら作業してください。

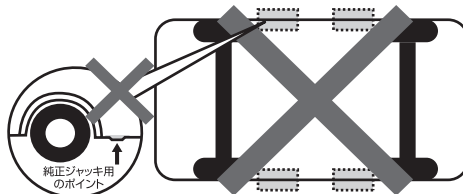


警告

- 本書をよく読み十分に理解したうえで使用してください。本書に記載の注意事項を必ずお守りください。
- 本製品は自動車整備に関する一般的な知識を有する方が使用することを前提に製造しています。
- ジャッキに異常が発生した場合(オイル漏れ、変形など)、使用をただちに中止して、異常箇所の修復を完全に行うまで使用せず、モノタロウお問合せ窓口までご連絡ください。
そのままご使用になった場合、重大な事故につながる大変危険です。
- ジャッキアップする際は必ず平らで固い路面の上で行ってください。傾斜地や凹凸のある地面、柔らかい地面では使用しないでください。
- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面で作業をお勧めします。
地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。
- ジャッキアップする前に、必ず車のサイドブレーキを引き、ジャッキアップしない方のタイヤに輪止めをしてください。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店などへ問合せ、必ず事前に確認してください。

必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してから
ジャッキアップしてください。また、ジャッキポイントが
わからない方は、使用前に販売店および
整備工場で確認してください。

★純正ジャッキ用のポイント(右図  部分)で
本製品を使用すると、車両を破損させる
おそれがあります。このジャッキポイントでの
使用は絶対にやめください。



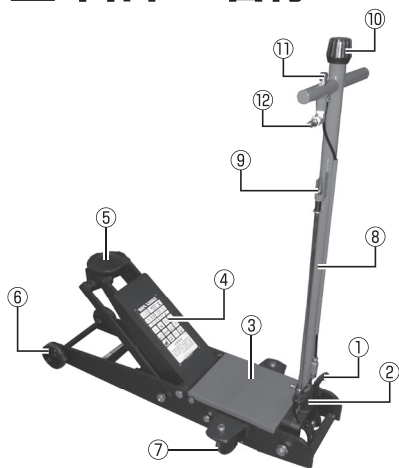
- 電子制御サスペンション車の場合は、必ず自動車に添付の取扱説明書を確認してからジャッキアップしてください。
- 車両指定のジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキポイントの形状とサドルの形状が合っているかを必ず確認してください。
形状が合わない場合に無理にジャッキアップするとジャッキポイントが破損するおそれがあります。
- ジャッキアップやジャッキダウン中にジャッキアップした物を揺らしたり、力を加えたりしないでください。また、ハンドル以外の場所には絶対に触れないでください。
- ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがずれることがありますので、時々確認しながら作業を行ってください。
- ジャッキを下げる際は、必ずゆっくりとノブを回して本体内部にあるリリースバルブを緩めてください。速く緩めると車両が急に降下して大変危険です。
- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。



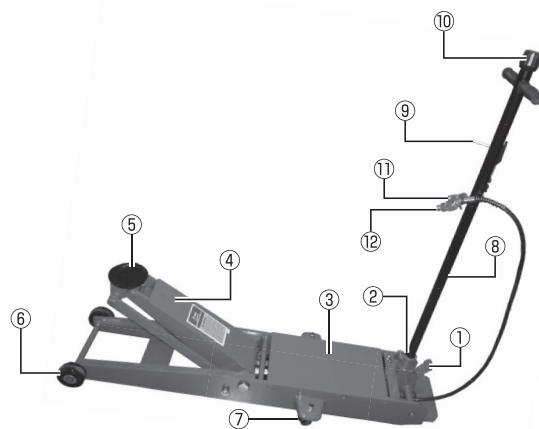
注意

- 2台以上の複数のジャッキを同時に使用しないでください。
- ジャッキを持ち運ぶ際や、ジャッキの上げ下げの際に、ジャッキの可動部分で指などを挟まないよう注意してください。
- ジャッキアップする時以外はハンドルを本体から外しておいてください。
- 購入時はリリースバルブは少し緩んだ状態で。

2 各部の名称



2t(62277898)



3t(62277907)

①	ペダル
②	ハンドルソケット
③	カバー
④	リフティングアーム
⑤	サドル
⑥	前輪
⑦	キャスター
⑧	ハンドル
⑨	ハンドルストッパー
⑩	ノブ
⑪	エアーバルブボタン/レバー
⑫	エアーチャック

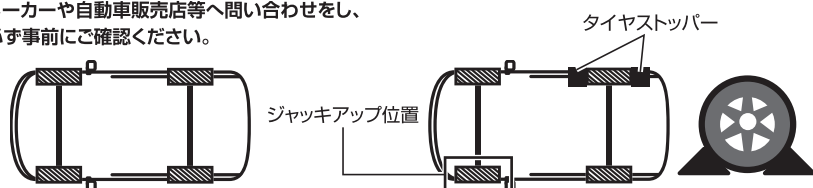
■ 使用前の注意

ジャッキアップする前に以下の準備をしてください。

【ジャッキアップ前の確認】

●必ずジャッキポイントの位置でジャッキアップしてください。ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカーや自動車販売店等へ問い合わせをし、必ず事前にご確認ください。

●ジャッキアップする際は、必ずタイヤストッパーを下図のようにジャッキアップするタイヤの対角線上のタイヤにかけてください。



【準備物の例（別売）】



ジャッキスタンド(3t)
注文コード: 19263886など

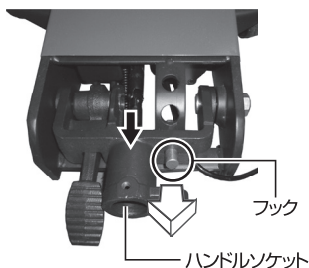


タイヤストッパー(2トン用)
注文コード: 41446167など

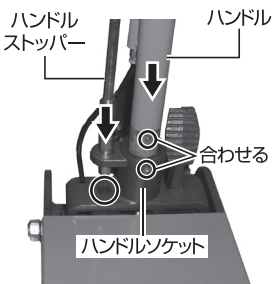
■ ハンドルの取付け

【2t】

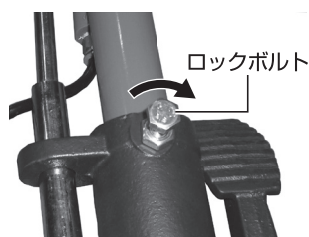
1. ハンドルソケットを手で押さえながらフックを外してください。この時、フックを外した後に急に手を離すと勢いよくハンドルソケットが跳ね上がりますのでご注意ください。また、手や指を挟まないよう注意してください。



2. ハンドルをハンドルソケットに差込みます。この時ハンドルストッパーも同時に差込みます。
3. ハンドルとハンドルソケットのボルト通し穴の位置を一致させます。



4. ロックボルトを矢印の方向に回しハンドルとハンドルソケットを締結します。

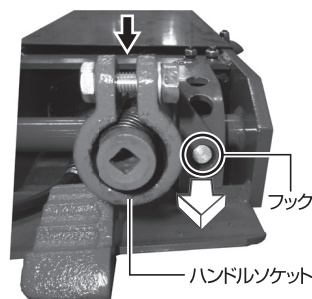


⚠ 注意

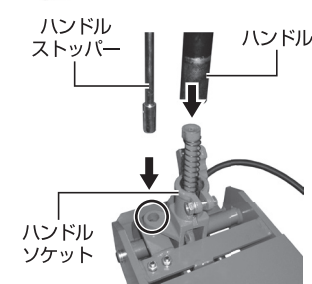
- 差込んだらハンドルを引っ張ってハンドルが抜けないことを確認してください。もし抜ける場合は、ハンドルがハンドルソケットにしっかり差込めているか再度確認してください。

【3t】

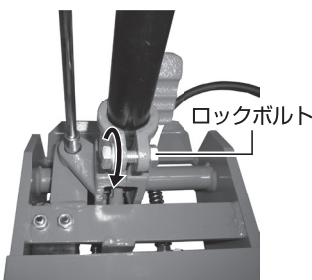
1. ハンドルソケットを手で押さえながらフックを外してください。この時、フックを外した後に急に手を離すと勢いよくハンドルソケットが跳ね上がりますのでご注意ください。また、手や指を挟まないよう注意してください。



2. ハンドルをハンドルソケットに差込みます。この時ハンドルストッパーも同時に差込みます。



3. ロックボルトを矢印の方向に回しハンドルとハンドルソケットを締結します。



⚠ 注意

- 差込んだらハンドルを引っ張ってハンドルが抜けないことを確認してください。もし抜ける場合は、ハンドルがハンドルソケットにしっかり差込めているか再度確認してください。

■ ジャッキアップ方法

【ハンドル操作の場合】

1. 平らで固い路面にジャッキを置き、車両のジャッキポイントの位置にサドルを合わせます。

⚠ 警告

- 左右両輪をジャッキアップする場合は、反対側の車輪に必ずタイヤストッパーなどの車輪止めを使用してください。
- ジャッキアップの前に自動車のサイドブレーキをかけ、シフトはP(パーキング):A/T車(CVT車)、1stミッション車の位置にして作業してください。

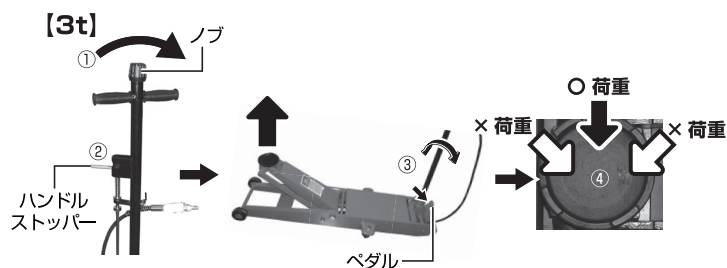
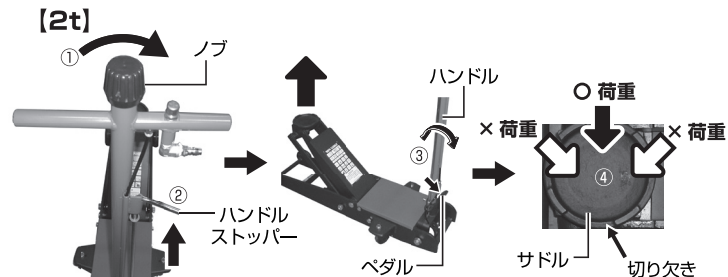
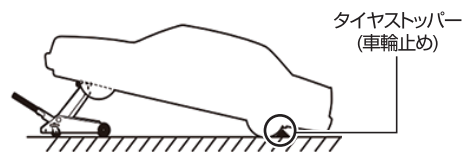
2. ノブを時計回り(右)に回して、本体内部にあるリリースバルブをしっかりと閉じてください。(①)閉じ不良の場合は、ジャッキアップしないばかりかジャッキアップ中に下がってくる危険もありますので、必ずしっかり閉じてください。
ただし、過度にノブを回すと故障の原因になります。

3. ハンドルストッパーを上げハンドルロックを解除します。(②)

4. ハンドルを上下に動かす、またはペダルを踏みサドルをジャッキポイントの近くまで上げて、いったん停止します。(③)

5. ジャッキポイントをサドルの切り欠きに合わせ、少し車体を持ち上げ、安定していることを確認してください。(④)

6. 確認できたら、ハンドルを上下に動かして車両をジャッキアップします。



【エアー操作の場合】

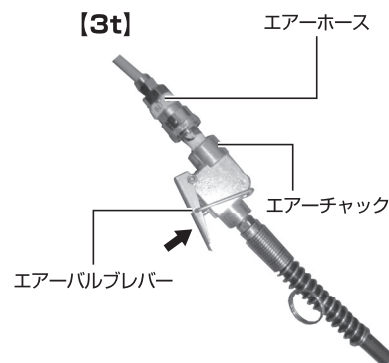
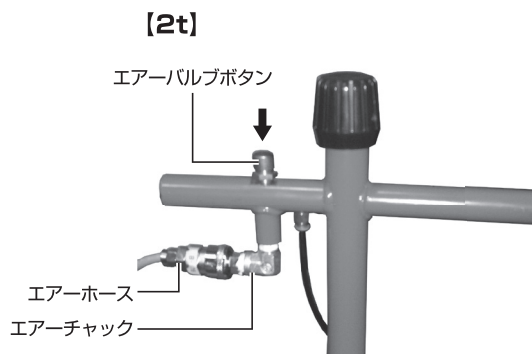
1. エアーチャックにエアーホースを接続します。

2. 「ハンドル操作の場合」の手順1～5を行います。

3. エアーバルブボタン / レバーを押し込むとサドルが上ります。

⚠ 注意

- エアー圧力は0.6～1.0MPaに調整してください。



⚠ 危険

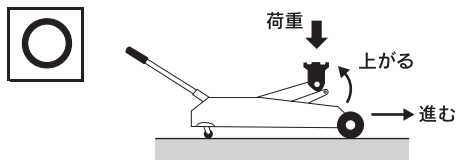
- 必要以上に対象物をジャッキアップしないでください。故障の原因になるだけでなく、ジャッキポイントの変形や荷重バランスの崩れによる事故の原因となります。
- ジャッキポイントは車種によって異なります。自動車に添付の取扱説明書、または自動車メーカー・販売店などへ問合せし、必ず事前に確認してください。
- 自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体の変形したり荷重バランスの崩れにより**重大な事故**につながります。
- 傾斜地や地面が軟弱な場所および平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では使用しないでください。

ジャッキが傾いたり、サドルが外れて自動車が落下し**使用者が死亡したり負傷を負う危険があります**。また、傾斜地ではジャッキアップ中に**自動車が動きだして重大な事故になります**。

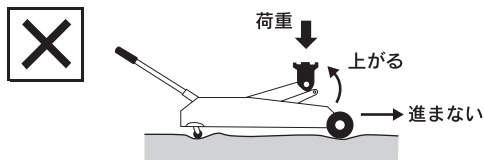
⚠ 危険

- ジャッキアップする際は必ず平らで固い路面の上で行ってください。傾斜地や凹凸のある地面、柔らかい地面では使用しないでください。
- ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。
アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

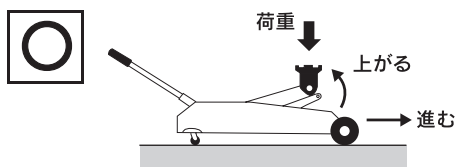
● 強固な地面（可）



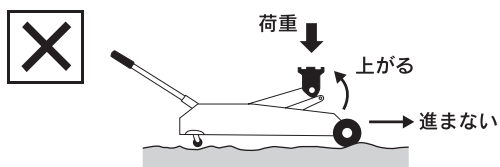
● 柔らかい地面はめり込んで進まない（不可）



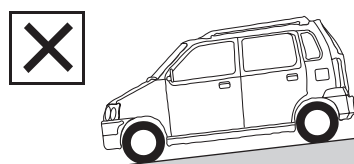
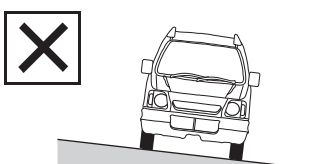
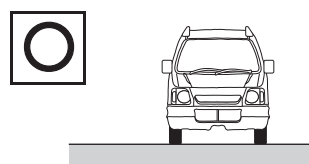
● 鋼板等の強固な板を敷いた場合（可）



● 凹凸な地面は前に進まない（不可）



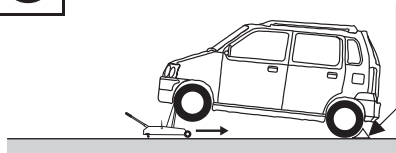
● 傾斜した場所や勾配のある道路では使用しないでください。



- サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認してください。移動しないまま使用すると、サドルがジャッキポイントから外れ、自動車が落下し**死亡事故や重傷を負う危険**があります。



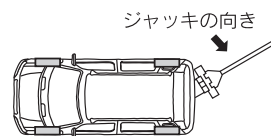
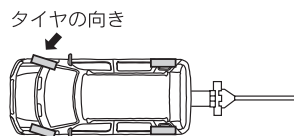
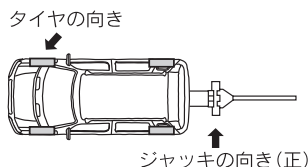
※図のようにジャッキアップ反対側に車輪止めをしてください。



負荷点が移動



- ジャッキアップの際は、車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐにいれてください。
ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し**使用者が死亡したり重傷を負う危険**があります。



- サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一時停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置（荷重の中心がサドルの中央にかかる位置）にセットされていることを確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体に変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

⚠ 注意

- 重たい荷物や人をのせたままジャッキアップしないでください。
- 自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
- ハンドルの上下操作はハンドルをしっかり握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルが急にはね上がったり操作が軽くなることもありケガにつながり危険です。
- **パンタジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップしないでください。**
- ジャッキが上昇しない場合やジャッキが下がってしまう場合は、本体内部にあるリリースバルブが緩んでいる可能性がありますので、ノブを時計回り(右回り)に回して本体内部にあるリリースバルブをしっかり締めてください。
- 変速ギヤはオートマチック車の場合は「P」に、マニュアル車の場合は「ロー」または「バック」に入れてください。
- 電子制御サスペンション車の場合は、必ず自動車に添付の取扱説明書を確認してからジャッキアップしてください。

■ 一定の高さで保持する場合

ハンドルの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

⚠ 警告

- **ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。**
車体の下に入って作業する場合は必ず十分な耐荷重のある別売のジャッキスタンドを使用してください。

- ジャッキアップした状態のままで自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。
- ジャッキアップ中はノブを回転させて本体内部にあるリリースバルブを締めたり、ゆるめたりは絶対におやめください。

■ ジャッキダウン手順

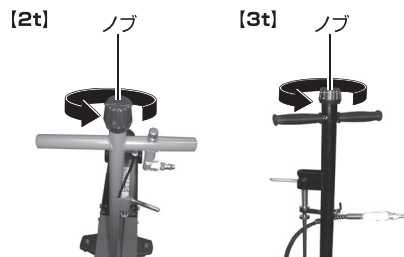
ノブを反時計回り(左回り)にゆっくりと回すと本体内部にあるリリースバルブが緩み、サドルが下降します。

⚠ 警告

- ノブを急に回さないでください。本体内部にあるリリースバルブが急に緩みサドルが急激に降りると自動車が落下し**使用者が死亡したり重傷を負うおそれ**があります。

⚠ 注意

- オイル漏れや故障の原因になりますので、ノブは180°(半回転)以上回さないでください。
- ジャッキダウンの際に可動部分で手や指を挟まないように注意してください。

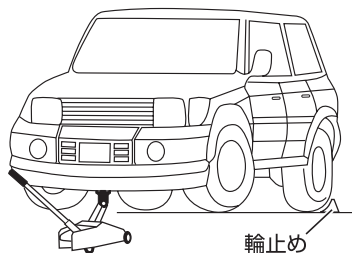


■ 作業終了

作業が終了したらサドル、リフティングアームなどに付着した泥、オイル、グリス、水滴などの汚れをきれいにふき取ってください。

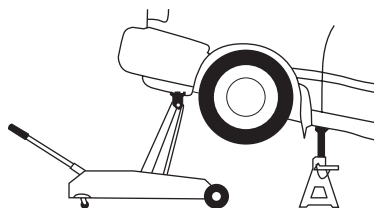
3 ジャッキアップ手順

1



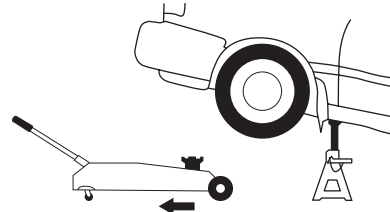
- ① ジャッキを使用してセンターでジャッキアップします。
- ジャッキポイントは必ず確認してください。また、必ず輪止めをしてください。

2



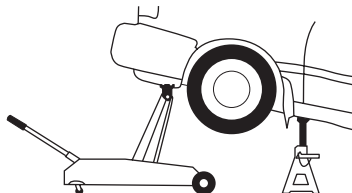
- ② ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを合わせて置きます。

3



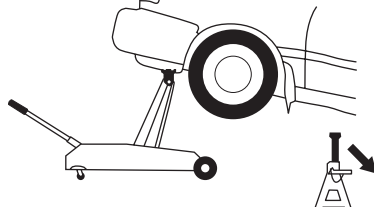
- ③ ジャッキを下げて移動させます。
- 車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認後作業します。

4



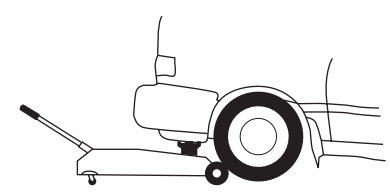
- ④ 作業が終わったらジャッキで車体を再度ジャッキアップします。

5



- ⑤ ジャッキスタンドを取り除きます。

6



- ⑥ ジャッキをゆっくり下げます。

⚠ 危険

- **ジャッキアップは平らで硬いコンクリート面での作業をお勧めします。**
地面に亀裂や異物がないことを確認の上、作業をしてください。アスファルト面は材料の配合や温度上昇などの条件により柔らかくなり、キャスターが地面にめり込み、キャスターに負荷がかかるおそれがあるためお勧めしません。

4 メンテナンス

■ ジャッキのお手入れ

1. ジャッキを使用しない時は錆などによる動作不良防止のため、リフティングアームを最下部まで下げておいてください。
2. ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
3. オイルの量が減少した場合、「ジャッキオイルの補充および交換」を参照のうえ、適量を補充してください。
4. 錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たる所および湿気の多い所では保管しないでください。

■ ジャッキオイルの補充および交換

1. カバー側面(左右)のボルト緩め、カバーを取外します。
2. 注油プラグを矢印の方向に回し取外します。

⚠ 注意

- ・ 油圧調整プラグは絶対に緩めたり、外したりしないでください。(バランスが崩れ危険です)
3. ジャッキオイルを交換する場合は、ジャッキ本体を逆さまにして排出してください。このときジャッキ本体が水平になるようにして全量のオイルを排出してください。
 4. 注油プラグからオイルを補充してください。このときゴミや異物が混入しないようにしてください。

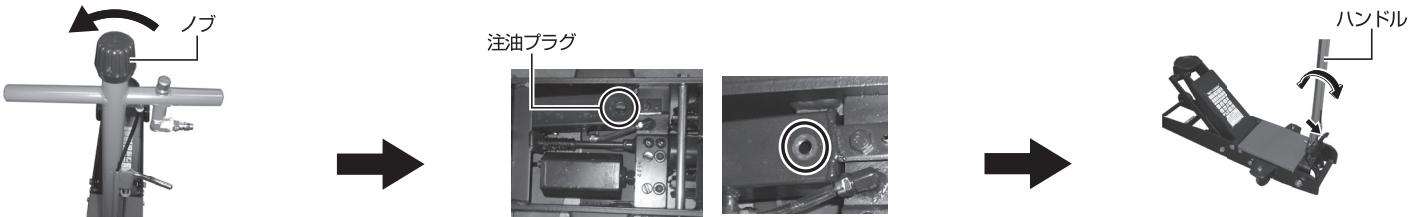
	種類	全量
2t	# 13ジャッキオイル作動油	320mL
3t		400mL

⚠ 注意

- ・ 指定以外の作動油(ブレーキオイル、アルコール、グリセリン、モーターオイルなど)は使用しないでください。
5. オイル補充後にサドルが途中でしか上がらないときは、ジャッキオイルの不足またはエア抜きが完全に出来ていないことが考えられますのでジャッキオイルを適量まで補充して、エア抜きをしてください。
 6. オイルの補充または交換作業が終了したら注油プラグを取付けてください。

【エア抜き】

※下図は2t用です。3t用も同じ手順でエア抜きを実施してください。



ノブを反時計回り(左回り)に回し、本体内部にあるリリースバルブを緩めます。
* ノブは完全に締めた状態から180°(半回転)以上緩めないでください。

注油プラグを取外します。

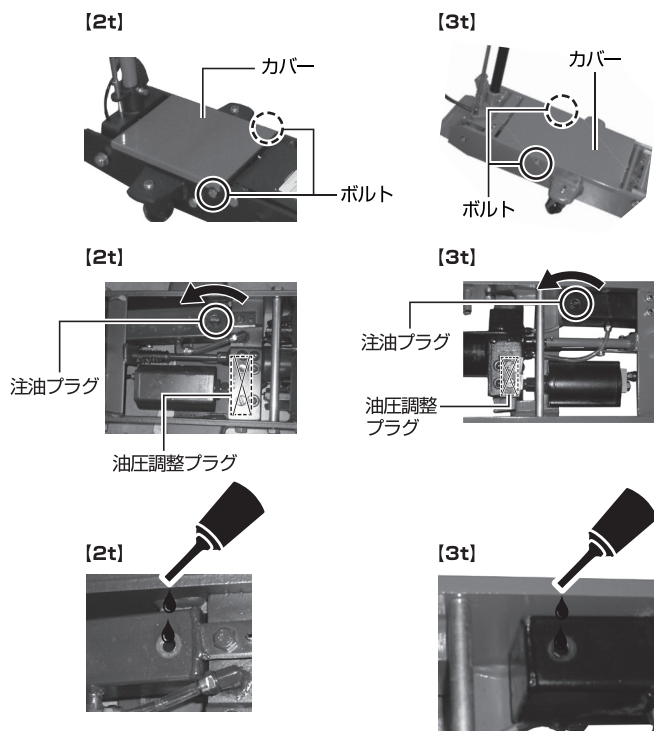
約10回ほど上下にハンドルをポンピングします。
作業が終了したら注油プラグを取付けてください。

⚠ 警告

- ・ 火気のある場所やその近くでオイル充填および交換をしないでください。また、通気の良い作業環境で行ってください。

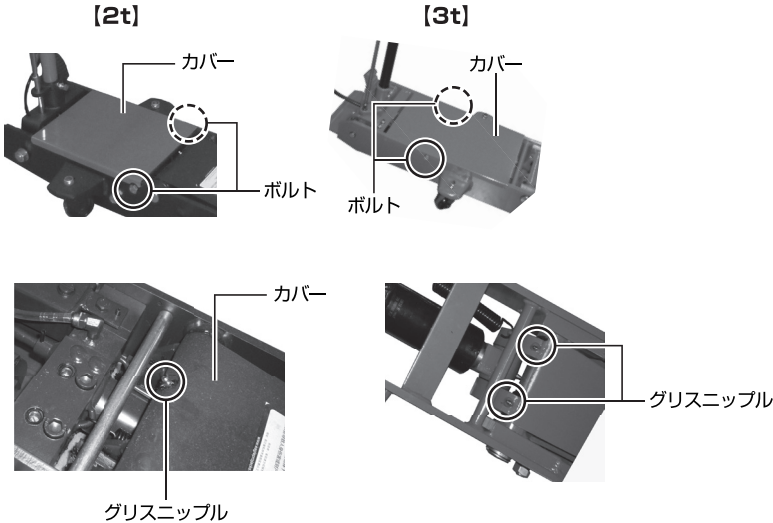
⚠ 注意

- ・ エンジンオイルやその他のオイルは粘度などが違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用をおやめください。必ずジャッキ専用オイルを使用してください。



■ グリスアップ

- 1. カバー側面(左右)のボルトを緩め、カバーを取外します。
- 2. グリスニップルから市販のグリスを給脂します。



5 故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度本書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。それでも状態に変わりがない場合は、モノタロウお問合せ窓口へご相談ください。

症状	原因	対策
適正負荷でジャッキアップしない	ノブ(本体内部にあるリリースバルブ)がしっかり締まっていない	ノブ(本体内部にあるリリースバルブ)をしっかり締める
	オイル不足	オイル補充
	油圧ユニットの故障	モノタロウお問合せ窓口へご相談ください
	油圧ユニットに空気混入	エアー抜きをする(本ページ上部の手順参照)
	油圧ユニットにゴミ混入	オイル強制循環をする(次ページの手順参照)
ジャッキが上で停止しない (自然に下降する)	オイル不足	オイル補充
	オイル漏れ	モノタロウお問合せ窓口へご相談ください
	ノブ(本体内部にあるリリースバルブ)がしっかり締まっていない	ノブ(本体内部にあるリリースバルブ)をしっかり締める
ジャッキが最高位まで上がらない	オイル不足	オイル補充
	オイル過多	余分なオイルを抜く
ジャッキが最下位まで下からない	各部の錆	潤滑剤注油
	油圧ユニットに空気混入	エアー抜きをする(本ページ上部の手順参照)

■ オイルの強制循環

- 1. ジャッキを水平な場所へ置き、ノブを反時計回り(左回り)に回し、ノブを緩めます。
※ノブは完全に締めた状態から180°(半回転)以上緩めないでください。
- 2. 前輪のシャフトに足をかけて手でリフティングアームを最高位まですばやく引き上げます。
- 3. 2.の作業を数回繰り返します。
この作業により油圧ユニット内に混入したゴミがオイルタンク内に移動します。
※図は2t用です。3t用も同じ手順で実施してください。

⚠ 警告

- ボンピングする時は、リフティングアームの稼働部で足や手を挟まないようにしてください。

